

やがて沢が右に曲がり、先を見通すことができるようになった。どうも飯森沢とは違うようだということは、すでにこのあたりで気付いていた。飯森沢にしては支流の入り具合、沢の様子、屈曲の具合などがどうも一致しないのである。それに礫石の指針から判断して、流れの方向も異なる。といて今更引き返すこともならず、問題はどの沢を下っているかだということになって、更に下降を続ける。

7時40分、右岸から沢が入る。こちらの方が本流のようである。そしてそのすぐ先でまた1本大きな支流が合流する。今までは、小さいながらも滝がいくつもかかり、結構楽しかったのであるが、この先は全く平凡な河原下りとなってしまった。

8時20分、右岸に坑道跡を見る。どうやらこのあたり昔の飯山跡のようである。河原の石もすっかり赤茶けてきた。

9時20分、左岸に何か建物が立っているのが見えてきた。林道も走っている。沢の様子に何の変化もないので、ここで下降終了として沢から上がる。

あとは林道を歩いて広河原の集落に出る。どうやら湯ノ沢を下ったらしいと、途中で見当をつけて覚悟はしていたものの、米沢管林署の看板と、湯ノ沢林道の標識を確認した時にはいささかガックリしてしまった。

樺森と飯森山を結ぶ登路が廃道となっていたことに加え、地図にない立派な登山路ができていて、現在地の確認が充分にできないままに下ってしまったのが失敗の原因である。自戒と反省の気持を込めてこの記録を公表する。

【タイム】 下降開始(6:00)→下降終了(9:20)→広河原(10:45)

押切川源流調査

1984年8月13日

L

野辺沢川林道の橋を渡り、左岸の跡跡に入る。5分程歩くが、ヤブが青丈ほどもあって、沢の方が楽だと、沢に下る。

ここから20分程で砂防ダム。右岸を捲いて越えると、広い河原となる。やがて右岸に3段20mの滝がかかり、その先で本流にも1mの滝がかかる。これは大きな釜をもっていて取り付けないので、右岸を捲く。

8時35分、熊沢出合に着く。沢は明るく、平凡な河原が続いている。

出合より20分程歩くと、右岸に土砂の堆積がある。右岸の支流から押し出した土石流によるもので、熊沢の流れが隠れてしまうほど大量に積もっている。この後も平凡な河原が二俣まで続く。

右俣は全く水流なし。地図を見ると、右俣にはまだ水流があってもいいような感じがするのだが、会津地方はここ1ヶ月以上も雨がふっていない。濡れたのだろうか。そのためらいつつも右俣に入る。

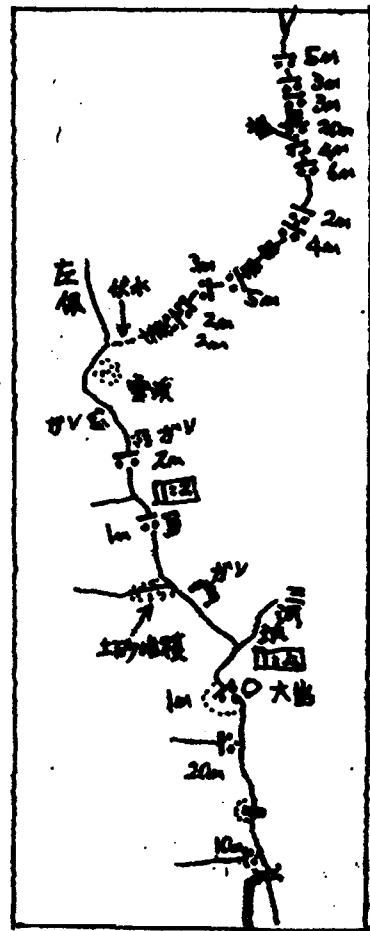
100m程進んだあたりで、小さなナメ床となり、わずかながら水流がでてきた。二俣あたりは伏水となっていたようである。

小滝がいくつか出てくるが、全て釜をもたず、登りやすい。4mの滝を越えるとすぐこの沢最大の20mの滝。落差はあるが、水量は少なく、迫力がない。スタンス・ホールドも充分にあり、15m程直登後、右側に寄って、樺木を利用して登る。

最後の二俣近くまで進行するが、水量もかなり少なくなってきたので、二俣手前で終了とする。

(記)

【タイム】 野辺沢林道橋(7:45)→熊沢出合(8:35)→終了(11:10)



7. 飯豊連峰・前川本流とタカツコ沢

今夏は、飯豊の沢を2本完登した。この地域の沢は、我々としても、前々から計画してはいたのだが、登る機会は少なかった。これまでの2本の沢の記録(本誌 No